

# 秋田の風

日銀秋田支店長コラム

20年ほど前になるか、米ニューヨーク連邦準備銀行で行われた各国中央銀行の若手職員が集まる研修に参加した。各国に一つしかない変わった組織にいる者同士、当然の流れで、毎晩グラス片手にそれぞれのお国事情を紹介したり、慣れないダンスを踊ったりして親交を深めた。

中央銀行は、物価の安定を図ることを目的に金融政策を行うため、先進国でも途上国でも政府からの独立が重要になるが、これが単純ではない。経済や社会の成熟状況に応じて差があるように感じられ、勉強になった。

最終日の晩、親しくなったシンガポール通貨庁の若者が、レストランで日本酒を注文した。聞けば日本への旅行で日本酒を

## SAKE

### 世界のファン呼ぶ地に

知り、それ以来、高いので特別な日にだけ飲んでいそうだ。ワインよりかなり高い1000円以上はする四合瓶を、その場にいた15人ほどで少しずつグラスに注いだ。彼には悪いが、さほどつまみ酒ではなかったが、彼以外の若者は、一風変わったワインといった感覚で初めての味を確かめていた。

の県民として誇らしく感じた方が多かっただろう。ところで、日本酒に関する統計や論評をみると、量を基準にしたものが多い。酒税が出荷量を基に算出されるため、その意味で量は適切な尺度だ。ただ、産地や酒蔵の実力、消費者の評価を量で測るには限界がある。

無形文化遺産への登録は、日本酒が金額ベースで伸びていく大きな追い風になる。特に、海外の方の日本酒への関心は明らかに高まるだろう。これまでも県内の多くの酒蔵が日本酒の輸出に取り組んでいるが、今後は一段と積極化していく余地が大きい。

を運ぶようになる。秋田の日本酒には、そうした評価を受ける力があると思う。もう一つ、最近、地域の素材を使ってワインやクラフトビールを生産する事業者が増え始めた。これは、訪れた方に日本酒を楽しんでもらう上でも、相乗効果を期待できる動きだ。

の伝統的酒造りが、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産に登録された。酒造りや酒米作り、販売に携わっている方はもとより、美酒王国秋田

内マーケットが縮小を続け、日本酒は基本的に右肩下がりのことになる。経済的には、一般に売り上げや利益など金額ベースの尺度が重視される。酒造りを巡っては、昨年、米価が大幅に上昇した。

ければ、輸送コストに関税もかかって割高になりやすい日本酒は、海外では多少特別な日に飲むものだ。だとすれば、なおさら良い酒を、その酒が醸された風土や酒造りに込めた思いなどの情報とともに、適正な価格で届けてほしい。

今年、秋田のSAKEが本格的に世界に挑む年になるのだろうか。



その他のコストもここ数年で大きく増えており、中でも人件費は今後も継続的に上昇する可能性がある。経営面からは、金額ベースの尺度がより重要にな

ワインの世界では、生産量は少なくとも評価の高い産地には、世界中からその味や背後にある物語に共感したファンが足

（片桐大地・日本銀行秋田支店長）

〈随時掲載〉